The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	心理的障害をかかえた人における自伝的記憶の概括化と特定化に関する研究の動向
Author(s)	末松, 弥歩
Citation	生老病死の行動科学. 2009, 14, p. 33-42
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/5120
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

展望論文

心理的障害をかかえた人における自伝的記憶の概括化と特定化に関する研究の動向

Overgeneral and specific autobiographical memory in individuals with psychological disorders: A review

（大阪大学大学院人間科学研究科博士前期課程）末　松　弥　歩

The primary aim of this study was to review theoretical and empirical research on overgeneral memory and specific memory. The secondary aim was to organize research issues by reference to criticisms of the theory.about those memories. Previous studies had shown that individuals with psychological disorders tended to overgeneralize their autobiographical memory, and were unable to retrieve specific autobiographical memories. Although some researchers have proposed theoretical and methodological issues in relation to studies of autobiographical memory, others have considered its clinical value to be high.Therefore, it is necessary to develop the theory of autobiographical memory and to establish the methodology that covers past issues.

Key word: autobiographical memory，overgeneral memory，specific memory，psychological disorder

Ⅰ　はじめに

われわれは日々様々なことを経験し、その出来事の記憶を蓄積している。その中には日常的に取るに足らない些細な出来事もあれば、判断や物事のきっかけとなるようなものや、強い感情の喚起を伴うような重要な出来事もある。このような様々な記憶の中でも、人が人生において経験した出来事の記憶は自伝的記憶（autobiographical memory）と呼ばれる（佐藤，2006）。自伝的記憶に関する研究は、Galton と Freud に端を発し（Robinson, 1986）、自伝的記憶の機能に関する研究（Pillemer, 1998；Rubin, 1996；Wheeler, Stuss, & Tulving, 1997）、自伝的記憶の記憶過程に関する研究（Castel & Craik, 2003；Hertel & Gerstle, 2003；Lancaster & Barsalou, 1997；Schacter & Slotnick, 2004；Tulving, 1983, 2002；Tulving, Kapur, Markowitsch,, Craik, Habib, & Houle, 1994）、自我形成における自伝的記憶の役割に関する研究（Conway & Pleydell-Pearce, 2000; Nelson & Fivush, 2004）、自己・社会・方向付け機能の研究（Sakaki, 2004；Webster, 1997；Woike & Polo, 2001）、再構成的性質を取り上げた研究（Conway & Ross, 1984；Karney & Coombs, 2000；Lewinsohn & Rosenbaum, 1987）などその研究テーマは多角的に広がりを見せている。

その中でも、近年注目を集めているのが、自伝的記憶の概括化（Overgenerality of autobiographical memory）に関する研究である。この自伝的記憶の概括化は、様々な心理的障害との密接な関連が報告されており、主体の持つ記憶という側面からの心理的障害の解明とそれを活かした臨床場面への応用が期待されている。佐藤（2002）は、抑うつや不安との

関連、抑圧的コーピングスタイル、侵入的記憶、偽りの記憶などといった臨床場面と深く関る自伝的記憶が今後ますます重要性を増すことを示唆している。しかし、自伝的記憶の概括化という現象はいまだ発展途上であり、その理論に対する評価は定まっていない。また、日本では自伝的記憶と心理的障害との関連を検討した研究はほとんど行われていない。

そこで、本研究では数ある自伝的記憶研究の中でも、特に心理的障害と密接に関連付けられることが明らかにされている自伝的記憶の特徴の１つである「概括化（Overgenerality）」を取り上げ、その理論と実証的研究の動向を概観する。加えて、その現象に対する批判を列挙し、研究課題について考察することで、日本の自伝的記憶の概括化研究に対する指針を示したい。

Ⅱ　自伝的記憶の概括化（Overgenerality）と特定化（Specificity）

以下より、自伝的記憶の概括化と特定化について定義と、それに関する先行研究を整理し、さらに概括化と特定化現象についていくつかの解釈を紹介する。

自伝的記憶の概括化という現象は、記憶と想起した際の感情の影響について研究したことから始まった比較的新しい研究である（Bower, 1981）。この記憶と感情に関する研究は、その発展と共に、特に心理的障害を持つ患者を対象とした日常生活の記憶へと広がりを見せた。最初に Overgeneral と Specific という単語を用いて心理的障害（この場合は自殺未遂患者）に見られる自伝的記憶の質的特徴を示したのは、Williams & Broadbent（1986）である。彼らは薬物乱用による精神薬理作用が現れた後、数日間の間に自殺未遂を行った自殺傾向にある患者を対象に研究を行った。彼らは、実験参加者にポジティブまたはネガティブな手がかり語（Happy、Angry など）を与え、その単語に関連する特定的な記憶（Specific Memory）を想起させ、年齢、性別、教育レベルの適合した同じ病院のうつ病でない患者とボランティア協力者の２つのコントロール群と比較した。その結果、自殺傾向にある患者は、特定化された出来事を想起するよう求めたにも関らず、手がかり語による記憶想起において、最初、概括化された記憶を不適切に想起する傾向にあり、一方でコントロール群は特定の日にちや時間に関する記憶を想起する傾向にあった。つまり、自殺傾向にある患者の記憶は過度に一般化（概括化）されており、特定的な記憶を思い出す前に記憶の概括化が促進されている可能性が示唆された。

ここでの特定化された記憶（Specific Memory）とは先週の月曜日、私は弟とテニスをしに公園へ行ったというような、特定の場所と時間に起こったイベントの記憶と定義される。一方で、概括化された記憶（Overgeneral Memory）とは、「朝食を食べる」や「電車に乗る」というように繰り返されるイベントや、「そのころ私はロンドンに住んでいた」というような長期間続くイベントの記憶と定義される。また、Willams（1996）は、概括化された記憶を、日々繰り返される出来事や１日以上続くような広範にわたる出来事の記憶、特定化された記憶は、特定の場所と時間に起こる、一日より短く、一度だけ起こる出来事の記憶と定義している。

この Williams & Broadbent（1986）の研究の後、特定化された自伝的記憶の検索が困難であるという傾向は自殺傾向にある患者に限定されるものではないことが明らかになった。Table 1 は、心理的障害の症状をもつ人々の自伝的記憶の概括化と特定化を調べた研究の一部をまとめたものである。自伝的記憶の概括化と特定化に関する最初の研究は、自殺傾向

Table 1　心理的障害における自伝的記憶の概括化と特定化に関する研究

疾患名	研究者	実験対象者（女性）	手がかり語（呈示時間）	従属変数	結果
鬱病	Williams & Broadbent (1986)	薬物乱用患者 25 名 (17) 同病院入院患者 25 名 (17) 非入院患者 25 名 (17)	ポジティブ－ 5 語 ネガティブ－ 5 語 (60)	記憶の概括化の比率	薬物乱用患者＞入院患者＝否入院患者
	Moore ら (1998)	うつ病患者 17 名 (17) 非うつ病患者 17 名 (17)	ポジティブなシナリオ－ 8 つ ネガティブなシナリオ－ 8 つ	記憶の概括化	うつ病患者＞非うつ病患者
	Williams & Scott (1988)	うつ病入院患者 20 名 (13) うつ病でない人 20 名 (13)	ポジティブ－ 5 語 ネガティブ－ 5 語 (60)	記憶の特定化	鬱病入院患者＜コントロール群
	Kuyken & Dalgleish (1995)	うつ病患者 33 名 (33) 非うつ病患者 33 名 (33)	ポジティブ－ 5 語 ネガティブ－ 5 語 (60)	記憶の概括化	うつ病患者＞非うつ病患者（ポジティブ手がかり語、ネガティブ手がかり語）
	Brewin ら (1998)	重篤な抑鬱症状のある癌患者 21 名 軽度の抑鬱症状のある癌患者 32 名 抑鬱症状のない患者 62 名	ポジティブ－ 5 語 ネガティブ－ 5 語 (60)	記憶の概括化	重篤な抑鬱症状のある癌患者＞コントロール群
トラウマ	Kuyken & Brewin (1995)	過去に虐待のない大鬱病患者 19 名 子供時代に性的虐待経験のある大鬱病患者 9 名 子供時代に身体的虐待経験のある大鬱病患者 10 名 子供時代に性的、身体的虐待経験のある大鬱病患者 18 名	ポジティブ－ 5 語 ネガティブ－ 5 語 (60)	記憶の概括化	性的虐待経験＞非性的虐待経験 身体的虐待経験＝非身体的虐待経験
PTSD	McNally ら (1994)	PTSD 症状が見られる軍人 39 名 (0) 疾患の見られない軍人 10 名 (0)	ポジティブ－ 10 語 ネガティブ－ 10 語 (60) ※手がかり語の半分は Williams & Dritschel (1988) の用いたもの	記憶の概括化の比率	すべての手がかり語では PTSD あり＝PTSD なし ※ Williams & Dritschel (1988) の手がかり語では PTSD ＞ PTSD なし
	McNally ら (1995)	PTSD 症状が見られる軍人 19 名 (0) PTSD 症状の見られない軍人 10 名 (0)	ポジティブ－ 10 語 ネガティブ－ 10 語 (60)	記憶の特定化の比率	PTSD あり ＜ PTSD なし
摂食障害	Dalgleish ら (2001)	摂食障害を持つ人 39 名 摂食障害のない人 21 名	ポジティブ－ 5 語 ネガティブ－ 5 語 (60)	記憶の概括化	感情価（ポジティブ、ネガティブ）とグループ間には相互作用がある。
季節性情動障害	Dalgleish ら (1999)	季節性情動障害患者 14 名 季節性情動障害でない人 15 名	ポジティブ－ 5 語 ネガティブ－ 5 語 (60)	記憶の概括化	ポジティブ手がかり語 季節性情動障害あり＝季節性情動障害なし ネガティブ手がかり語 季節性情動障害あり＜季節性情動障害なし

にある患者を対象としていたが、その次に調査されたのは、心理的障害の中でも大鬱病性障害（MDD）の患者を対象としたものであった。Table 1 に示した MDD 患者を対象とした 4 つの研究は、自伝的記憶の概括化が MDD 患者に見られ、特定化はコントロール群の方に見られるという一貫した示唆が得られている（Brewin, Watoson, McCarthy, Hyman & Dayson,1998；Kuyken & Dalgleish, 1995；Moore, Watts & Williams, 1988；Wiliams & Scott, 1988）。これより、自伝的記憶の概括化は MDD 患者の一貫した特性であることが分かる。

同様の結果は、後の研究で、トラウマ症状（Kuyken & Brewin, 1995）、心的外傷後スト

レス障害（McNally, Litz, Prassas, Shin, & Wearhers, 1994；McNally, Lasko, Macklin, & Pitman, 1995）や摂食障害（Dalgleish, Tchanturia, Serpell, Hems, Yiend, & Silva, 2003）、季節性情動障害（Dalgleish, Spinks, Yiend, & Kuyken, 2001）などにも見られた。

以上より、研究の圧倒的多数は、自伝的記憶の概括化が心理的障害と関連があることが分かった。

Williams（1996）は記憶の概括化という現象の解釈として、忌避記憶の中の特定的な記憶から受けるネガティブな影響を制御するための方略として発達したのではないかと推測している。このことは、Williams, Stiles & Sharpiro（1999）が感情制御仮説（Emotion Regulation Hypothesis）という言葉を用いて説明している。感情制御仮説とは、特定化された記憶を概括化した記憶に再構成することでそのネガティブな影響を抑制し、適応を図るものである。感情制御仮説で幼少時にトラウマティックな体験した人の自伝的記憶の概括化を説明すると、トラウマ経験の中でも特に特定化された詳細な記憶を想起することによる苦痛から「機能的回避」しようとした結果、特定化された自伝的記憶の想起が減少し、自伝的記憶の概括化が見られたということである。それを考慮すると、記憶の概括化という行為は、忌避記憶からの適応的反応と考えられる。しかし、自伝的記憶の概括化は強固で、時間と共に安定しやすいことが報告されており、一度記憶の概括化傾向が定着すると、それが記憶の認知的スタイルとして習慣化されやすく、短期予後不良と関連していることが報告されている（Brittlebank, Scott, Williams, & Ferrier, 1993）。このことは、鬱病患者が重篤な状態から回復したのちでも、記憶の概括化が安定した症状として見られるという結果でも示されている（Nandrino, Pezard, Poste, Reveillere, & Beaune, 2002）。また、過度に概括化された記憶の範囲は治療のアウトカムや鬱の臨床治療の経過の重要な予測因子となると見られており（Brittlebank ら，1993；Peeters, Wessel, Merckelbach, & Boon-Vermeeren, 2002）、認知行動療法の対象となりうるべき現象として検討されている。記憶の概括化に対する行動療法は、記憶の概括化にも、抑うつの再発回避にも効果的であることが示されている（Williams, Teasdale, Segal, & Soulsby, 2000; Teasdale, Segel, Williams, Ridgeway, Soulsby,& Lau, 2000）。

Ⅲ　自伝的記憶の概括化と特定化に対する反論

しかしながら、自伝的記憶の概括化と特定化には、方法論と自伝的記憶の定義に関する問題点から、その現象について否定的な解釈を示す研究もある。

1．方法論における問題

方法論の問題として、自伝的記憶の概括化と特定化に関する大半の研究が Williams & Broadbent（1986）の使用した自伝的記憶テスト（Autobiographical Memory Test；AMT）を利用していることが挙げられる。

自伝的記憶テストとは、自伝的記憶の特定化や概括化を測るために用いられる方法である。自伝的記憶の概括化や特定化に関する研究のほとんどは、Williams & Broadbent（1986）の用いた自伝的記憶テスト、あるいはそれを参考に改良したものを使用している。AMT では、被験者は手がかり語を与えられ、一定の時間内（例えば、30 秒か 60 秒）に特定の記憶を思い出すよう指示される。手がかり語は、ほとんどの研究において、ポジティブな単語（例えば、

幸福な）とネガティブな単語（例えば、悲しい）で構成されている。被験者の想起した記憶はポジティブな手がかり語とネガティブな手がかり語において、被験者の想起した記憶の時間や場所などが特定されているか、特定されていないかで分類される。自伝的記憶テストは、自伝的記憶の概括化と特定化研究において、頻繁に用いられている手法であり、先述したような一定した見解が得られている。また、比較的簡単に測定できる手法であること、分析により数値化の方法が統一されていること、臨床家でなくても自伝的記憶の概括化と特定化が測定できるというメリットもある。

しかし、一方で、自伝的記憶テストという方法は、一定の時間内に記憶の想起を求めるという点で問題がある。想起の際に時間的制限を設けることで自伝的記憶の詳細な部分まで想起が至らず、結果として生成される自伝的記憶が特定性の低いものになりやすい、という可能性があるからである。この点については、Conway の提唱した自伝的記憶の階層構造モデルから考えることができる。

Conway & Pleydell-Pearce（2000）は、自伝的記憶の特定性の側面から、その構造を 3 つの水準で表した。これは、自伝的記憶の階層構造モデルと呼ばれる（Conway, 1992, 1996a, 1996b; Conway & Pleydell-Pearce, 2000）。この内、もっとも高いレベルに位置するのは、lifetime periods（人生の時期）で、「X 大学在学」の例に表されるような、人、活動、場所、計画、目標に関わる時間的な情報を含んでいる。lifetime periods は、比較的、始まりと終わりがはっきりとしており、その記憶の時間幅は長く、年単位に及ぶ。次に、lifetime periods より下位の、自伝的記憶の階層構造モデルの中間の階層にあるのは、general events（一般的な出来事）である。これは、出来事に関する一般的な知識であり、「自転車で通学する」のように繰り返される出来事や、「休暇中のアメリカ旅行」のように特定性の高い出来事が含まれる。ここでいう general とは、次の出来事の細部に比べると一般性が高いという意味である（佐藤，2006）。そして、最も出来事の特定性が高く、自伝的記憶の階層構造モデルの最下層に位置するのが、event specific knowledge（出来事の細部）である。これは、lifetime periods や general events と比較すると、視覚的にも思い出せるほど比較的はっきりした知覚から構成された出来事の細部にわたる情報を持っており、数秒から数時間の幅で認識されている。このモデルでは、手がかり語を呈示すると「人生の時期」、「一般的な出来事」、「出来事の細部」へと検索が絞り込まれ、課題に合致した想起が可能になるまで検索が行われるとされている（佐藤，2006）。Figure 1 はこれら 3 つの階層構造で表された、特定性の異なる情報の例を示している。

この Conway の自我記憶システムによれば、自伝的記憶の回想は出来事の細部までアクセスが行き届いた回想過程のコントロールが必要とされている。しかし、自伝的記憶テストにはその使用に際し、時間の制限があり、記憶の回想に際して、その条件が満たされているか不明瞭である。つまり、実験協力者には、その記憶の回想過程において、出来事の細部に達する前に、患者は答えを強いられる可能性がある。よってこれまで AMT を使用し示されてきた自伝的記憶の概括化が恣意的に生成された可能性は高く、認知過程の抑制の結果として現れたものはないかと考えられる。今後の自伝的記憶の概括化研究では、時間的問題点を考慮し、出来事の細部までアクセスが行き届く状態で、先行研究と同様の結果が得られるか再度検討する必要がある。よって、そのための方法として、時間の制限に対する問題点を改善した自伝的記憶テストに変わる新たな方法を考える必要がある。

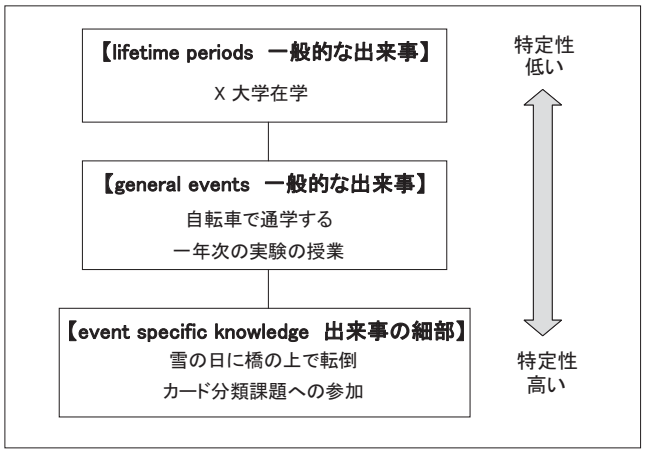

Figure 1 階層構造に表象されている情報の例
（Conway & Pleydell-Pearce, 2000；佐藤，2006 を参考に作成）

2. 自伝的記憶の定義における問題

自伝的記憶の定義に関しては、長年論じ続けられている。例えば、記憶の分類に関する問題が挙げられる。Tulving (1972) の分類に従えば、エピソード記憶とは「日付のあるエピソードや事象についての情報、またそれらのエピソードや事象間の時間的・空間的関係についての情報を受け入れたり、貯蔵したりするシステム」であり (Tulving, 1972)、この定義に従えば、自伝的記憶はエピソード記憶の一種ということになる。しかし、Nelson (2003) や Brewer (1986) のように、エピソード記憶が自伝的記憶を包括的に含む概念であると捕らないものもいる。よって、自伝的記憶に関する定義については、広義には「人が人生において経験した出来事の記憶」と定めることは出来るが、狭義にはその範囲の限定が出来ず、一貫した定義がなされていない。現に、その定義については研究者間でも自伝的記憶の分析単位をどこに依拠するかにより様々なものが提唱されており、「エピソード」を強調する定義 (Baddeley, 1997；Robinson, 1992；神谷，2000) ら、「個人史」を強調する定義 (森，1995)、「自己」を強調する定義 (Conway & Rubin, 1993；Haberlandt, 1999) など様々である。

以上より、研究者によって、自伝的記憶の回想において「エピソード」、「個人史」、「事故」のどの部分を重視するかにより、定義が多少異なってくる。この記憶の概括化についてもこの問題は例外ではない。自伝的記憶テストによって生み出される回想内容が、定義を満たしているかどうか議論が生じている。

例えば、Lemogne, Piolino, Jouvent, Allilaire & Fossati (2006) は、自伝的記憶は符号化文脈 (覚える際の状況) の回想という能力によって特徴づけるとして、定義の中でそれを重視している。自伝的記憶の概括化と特定化に関する過去の研究を見ると、抑うつ患者において符号化文脈の回想に注目したものはほとんど無い。つまり、自伝的記憶の回想は、符号化文脈を根底に時間と場所、感覚認知の詳細、主観的経験、視覚的経験を包括したものである必要があるにも関らず、従来の自伝的記憶の概括化研究ではその内の時間的・空間的情報という一側面のみを重点化した定義をもとに研究が行われている。よって、その手法を用いて記憶の概括化と特定化を検証することは問題であるとしている。

Ⅳ　まとめ

本論文では、自伝的記憶の概括化と特定化について、理論と実証的研究を概観した。その結果、多くの心理的障害において、自伝的記憶の概括化と特定化の傾向がみられることが明らかになった。この自伝的記憶の概括化は心理的障害と関連する特定的な記憶を想起することによるネガティブな影響を防ぐための、感情制御機能として表出したものではないかと推測される。しかし、自伝的記憶の概括化傾向は、その性質として時間とともに安定性があり、一度症状が定着すると回復があまりみられない強固な症状であることが分かっている。加えて、自伝的記憶の概括化と短期予後不良には関連があることも指摘されていることから（Brittelebank et al., 1993）、自伝的記憶の概括化が認知行動療法の対象となりうるとして検討されている。以上の結果から、心理的障害に関し、自伝的記憶の観点からその実態を明らかにすることは、その疾患症状の諸側面を明らかにするために重要であると考えられる。また、その結果から更なる効果的な臨床的介入法を示唆できる可能性も示唆される。

しかし、その一方で、自伝的記憶の概括化と特定化については、方法論的・理論的問題があることが指摘されており、その現象が不明瞭であることも言及されている（Lemogne, 2006）。これからの自伝的記憶の概括化と特定化の研究には、更なる実証的研究の確立のために、理論の一本化に向けた更なる議論と共に、その理論を網羅する方法論の確立が必要であると考えられる。

Ⅴ　引用文献

Baddeley, A. D. 1997 Human memory. revised ed. Hove, UK: Psychology Press.

Bower, G. H 1981 Mood and Memory. *American Psychologist*, **36**, 129-148.

Brewer, W. F. 1986 What is autobiographical memory? In D. C. Rubin (Ed.), Autobiographical memory, 25-49. Cambridge: Cambridge University Press.

Brewin, C. R., Watson, M., McCarthy, S., Hyman, P., & Dayson, D. 1998 Intrusive memories and depression in cancer patients. *Behavior Research and Therapy*, **36**, 1131-1142.

Brittlebank, A. D., Scott, J., Williams, J. M. G., & Ferrier, I. N. 1993 Autobiographical memory in depression: State or trait marker? *British Journal of Psychiatry*, **162**, 118-121.

Castel, A. D., & Craik, F. I. M. 2003 The effects of aging and divided attention on memory for item and associative information. *Psychology and Aging*, **18**, 873-885.

Conway, M. A 1992 A structure model of autobiographical memory. In M. A. Conway, D. C. Rubin, H. Spinnler, & W. A. Wagenaar (Eds.), *Theoretical perspective on autobiographical memory*. Dordrecht, Ther Netherlands: Kluwer Academic Publishers. 167-193.

Conway, M. A. 1996a Autobiographical knowledge and biographical memories. In D. C. Rubin (Ed.), *Remembering our past: Studies in autobiographical memory* New York, NY : Cambridge University Press. 67-93.

Conway, M. A. 1996b Autobiographical memory. In E. L. Bjork & R. A. Biork (Eds.), *Memory*. San Diego, CA : Academic Press. 165-194.

Conway, M. A., & Pleydell-Pearce, C. W. 2000 The construction of autobiographical memories in the self-memory system. *Psychological Review*, **107**, 261-288.

Conway, M. A., & Ross, M. 1984 Getting what you want by revising what you had. Journal of Personality and Social Psychology, **47**, 738-748.

Conway, M. A., & Rubin, D. C. 1993 The structure of autobiographical memory. In A. F. Collins, S. E. Gathercole, M. A. Conway, & P. E. Morris (Eds.), Theories of memory. Hove, UK: Lawrence Erlbaum Associates. 103-137.

Dalgleish, T., Spinks, H., Yiend, J., & Kuyken, W. 2001 Autobiographical memory style in seasonal affective disorder and its relationship to future symptom remission. *Journal of Abnormal Psychology*, **110**, 335-340.

Dalgleish, T., Tchanturia, K., Serpell, L., Hems, S., Yiend, J., De Silva, P., et al. 2003 Self-reported parental abuse relates to autobiographical memory style in patients with eating disorders. *Emotion*, **3**, 211-222.

Fivush, R., & Nelson, K. 2004 Culture and language in the emergence of autobiographical memory. *Psychological Science*, **15**, 573-577.

Haberlandt, K. 1999 Human memory. Boston, MA: Allyn and Bacon.

Hertel, P. T., & Gerstle, M. 2003 Depressive deficits in forgetting. *Psychological Science*, **14**, 573-578.

神谷俊次　2000　自伝的記憶のパーソナリティ特性による分析　心理学研究，**71**, 96-104.

Karney, B. R., & Coombs, R. H. 2000 Memory bias in long-term close relationships: Consistency or improvement? Personality and Social Psychology Bulletin, **26**, 959-970.

Kuyken, W., & Brewin, C. R. 1995 Autobiographical memory functioning depression and reports of early abuse. *Journal of Abnormal Psychology*, **104**, 585-591.

Kuyken, W., & Dalgleish, T. 1995 Autobiographical memory and depression. *British Journal of Clinical Psychology*, **34**, 89-92.

Lancaster, J. S., & Barsalou, L. W. 1997 Multiple organizations of events in memory. *Memory*, **5**, 569-599.

Lemogne, C., Piolino, P., Friszer, S., Claret, A., Girault, N., Jouvent, R., Allilaire, J.F., & Fossati, P. 2006 Episodic autobiographical memory in depression: Specificity, autonoetic consciousness, and self-perspective. *Consciousness and Cognition*, **15**, 258-268.

Lewinsohn, P. M., & Rosenbaum, M. 1987 Recall of parental behavior by acute depressives, remitted depressives, and nondepressives. Journal of Personality and Social Psychology, **52**, 611-619.

McNally, R. J., Lasko, N. B., Macklin, M. L., & Pitman, R. K. 1995 Autobiographical memory disturbance in combat-related posttraumatic stress disorder. *Behaviour Research and Therapy*, **33**, 619-630.

McNally, R. J., Litz, B. T., Prassas, A., Shin, L. M., & Weathers, F. W. 1994 Emotional priming of autobiographical memory in posttraumatic stress disorder. *Cognition &*

Emotion, **8**, 351-367.
Moore, R. G., Watts, F. N., & Williams, J. M. G. 1988 The specificity of personal memories in depression. *British Journal of Clinical Psychology*, **27**, 275-276.
Nandrino, J. L., Pezard, L., Poste, A., Reveillere, C., & Beaune, D. 2002 Autobiographical memory in major depression: A comparison between first-episode and recurrent patients. *Psychopathology*, **35**, 335-340.
Nelson, K. 2003 Self and social functions: Individual autobiographical memory and collective *narrative*. *Memory*, **11**, 125-136.
Nelson, K. D., & Fivush, R. 2004 The emergence of autobiographical memory: A social cultural developmental theory. *Psychological Review*, **111**, 486-511.
Peeters, F., Wessel, I., Merckelbach, H., & Boon-Vermeeren, M. 2002 Autobiographical memory specificity and the course of major depressive disorder. *Comprehensive Psychiatry*, **43**, 344-350.
Pillemer, D. B. 1998 Momentous events, vivid memories. Cambridge, MA: Harvard University Press.
Robinson, J. A. 1986 Autobiographical memory: A historical prologue. In D. C. Anderson, R. J. Spiro & W. E. Montague(Ed.) , Schooling and the acquisition of knowledge. Hillsdale, NJ; Erlbaum. 99-135.
Robinson, J. A. 1992 Autobiographical memory. In M. Gruneberg & P. Morris (Eds.),Aspects of memory. 2nd ed. Volume 1: The practical aspects. London, UK:Routledge. 223-251.
Rubin, D. C. 1996 Remembering our past: Studies in autobiographical memory. New York: Cambridge University Press.
Sakaki, M. 2004 Structure of Self-knowledge: Is self-concept represented independently of autobiographical memory? *International Journal of Psychology*, **39** (5-6) , 322-322.
佐藤浩一　2002　自伝的記憶 井上毅 佐藤浩一（編）日常認知の心理学 北大路書房，70-87.
佐藤浩一　2006　自伝的記憶の構造と機能 新潟大学大学院現代社会文化研究科博士論文（未公刊）
Schacter, D. L., & Slotnick, S. D. 2004 The cognitive neuroscience of memory distortion. *Neuron*, **44**, 149-160.
Teasdale, J. D., Segel, Z. V., Williams, J. M. G., Ridgeway, V. A., Soulsby, J. M., & Lau, M. A. 2000 Privation of relapse/recurrence in major depression by mindfulness based cognitive therapy. *Journal of Consulting and Clinical Psychology*, **68**, 615-623.
Tulving, E. 1972 Episodic and semantic memory. INE. Tulving & W. Donaldson (Eds.), Organization of memory. New York : Academic Press. 382-403.
Tulving, E. 1983 Ecphoric processes in episodic memory. Philosophical Transactions of the Royal Society of London, Series B, **302**, 361-371.
Tulving, E. 2002 Episodic memory: From mind to brain. Annual *Review of Psychology,* **53**, 1-25.
Tulving, E., Kapur, S., Markowitsch, H. J., Craik, F. I. M., Habib, R., & Houle, S. 1994

Neuroanatomical correlates of retrieval in episodic memory: Auditory sentence recognition. *Proceedings of the National Academy of Sciences*, USA, **91**, 2012-2015.

Webster, 1997 The Reminiscence functions scale; A replication. *International Aging and Human Development,* **44**, 137-148.

Wheeler, M. A., Stuss, D. T., & Tulving, E. 1997 Toward a theory of episodic memory: The frontal lobes and autonoetic consciousness. *Psychological Bulletin*, **121**, 331-354.

Williams, J. M. G. 1996 Depression and the specificity of autobiographical memory. In D. C. Rubin (Ed.), Remembering our past: Studies in autobiographical memory (244-267). Cambridge, England: Cambridge University Press.

Williams, J. M. G., & Broadbent, K. 1986 Autobiographical memory in suicide attempters. *Journal of Abnormal Psychology*, **95**, 144-149.

Williams, J. M. G., & Scott, J. 1988 Autobiographical memory in depression. *Psychological Medicine*, **18**, 689-695.

Williams, J. M. G., Stiles, W. B. & Sharpiro, D. 1999 Cognitive mechanisms in the avoidance of painful and dangerous thoughts : elaborating the assimilation model. *Cognitive Therapy and Research*, **23**, 285-306.

Williams, J. M. G., Teasdale, J. D., Segal, Z. V., & Soulsby, J. 2000 Mindfulness-based cognitive therapy reduces overgeneral autobiographical memory in formerly depressed patients. *Journal of Abnormal Psychology*, **109**, 150-155.

Woike, B., & Polo, M. 2001 Motive-related memories: Content, structure, and affect. Journal of Personality, **69**, 391-415.